

図表2-24 プレゼンボード見本

①-4 パースによる完成イメージ

お客さまにとって、これまで見てきたようなサンプルだけでは実際の空間がどのようなのかできあがりのイメージがつかみにくいという問題があります。そこでイメージがつかみやすいように3次元の透視図(パース)^{※9}など立体的な表現を用意することができます。

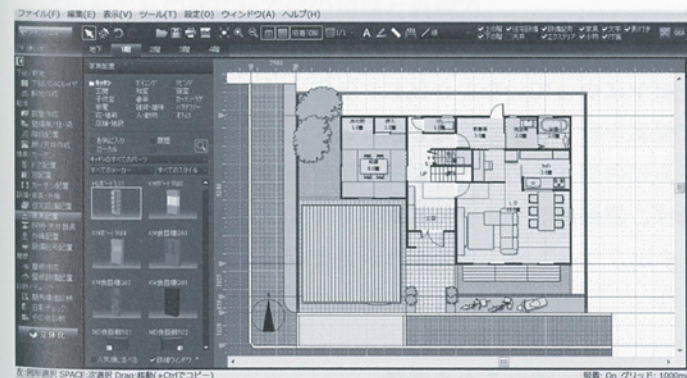
パースの作成には手描きのほかパソコンが使われるケースも増えています。カタログなどを切り取る必要もなく、さまざまな写真や図表をスキャニングして取り込み、自由にレイアウトできます。複製が容易で、経緯を記録できるのも利点です。さらにCAD(Computer Aided Design)という製図ソフトを使った図やパースは商品の形や大きさ、位置関係に加え、色やテクスチャー、影などの視覚効果を施すことでコーディネートをよりリアルに見せることができ、イメージが把握しやすくなります。

手描きやパソコンで作成した完成イメージをプレゼンボードに使用することもあります。

※9 透視図(perspective drawing)は、3次元の立体を2次元上で立体的に表現し、形態や大きさを正しく表し伝えるための図。遠近法を用い、近くのは大きく、遠くのは小さく表す。図法として一点透視図法、二点透視図法、三点透視図法などがある。



図表2-25 手描きパース例



図表2-26 CAD画面例

CADでは上のような平面図から自動的にパースを起こすことができる。